

☆津市立南郊中学校区の取組



◆事業概要

1 中学校区の現状と課題

南郊中学校区の子どもたち中には、生活面の不安定さから心が不安定になり、自己中心的な言動をとり相手を傷つけてしまう等、他者との係わりに課題をもつ子もいます。また、コミュニケーション力が十分に育っていないかったり、学習に対しても意欲的に取り組めたりしない等の課題もあります。また、外国人の子どもたちの中には、日本語がよく理解できずに学校にとけこめずにいる子どもたちもいます。

2 課題解決のための主な取組

(1) 子ども人権フォーラム

子どもと保護者、地域住民が、協力したり協働したりして「子ども人権フォーラム」に取り組むことで、子どもたちに自分も相手も大切な存在であるという意識や、違いを認め合って互いに理解し合おうとする意識を育てることができると考えました。

参加した小中学生は、中学校の人権サークルの子どもたちの基調提案を受け、いじめの問題をテーマに討議しました。保護者や地域住民も討議に参加し、学校・家庭・地域が一体となっていじめの問題について考えました。子どもたちは、様々な考えや思いに触れることで、他者の気持ちを理解する機会となりました。人権サークルの子どもたちも、自分たちが発信した提案に参加者が共感してくれたことで、自己肯定感を深めました。また、大勢の前で自分の考えを発信したことで、自信をつけ、コミュニケーション力を高め、普段の学習にも意欲的に取り組む姿も見られるようになりました。

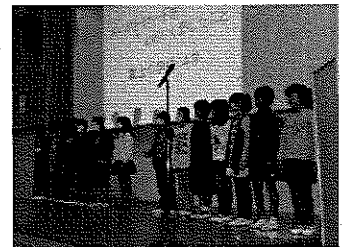
(2) 人権フェスティバル

「子ども人権フォーラム」に引き続き、この地域において人権文化の確立をめざして活動している様々な団体が協働して「南郊地区人権フェスティバル」を開催しました。保護者や地域住民等、多様な立場の人々と一緒になって話し合い活動等を行うことにより、子どもたちが、多様な価値観や経験、生き様等と豊かに出会いながら、励まされ、思いを伝え合えるコミュニケーション力が高められると考えました。

今年度は、地域の人権課題である部落問題、障がい者や外国人の人権に係わる問題等の解決をめざしました。子どもと保護者や地域住民は、一つの行事を作り上げていく中で、豊かなつながりを実感することができました。

また、子どもたちが様々な人権課題への思いや考えを発表しました。参加した大人からも、「私たち大人もみなさんと同じで、差別をなくしていこうと考えています」等、子どもたちの発表への思いや考えを返しました。大人から認められ、励まされたことで、子どもたちは自信を深めました。

その後の意見交流では、様々な立場の人が「身近な課題から解決していこう」等の意見を述べ、「みんなで人権が大切にされる地域にしていこう」ということを確認することができました。



人権フェスティバルの様子

◆実践を振り返って

南郊中学校区では、これら以外にも様々な活動に取り組みました。子どもや保護者、地域住民が一体となった取組を通して、子どもたちは自信をつけ、友だちと活発にコミュニケーションをとったり、学習にも積極的に取り組んだりするようになりました。また、子どもたちは、豊かなつながりを実感し、安心感に包まれ、自尊感情も向上しました。

今後も、子ども支援ネットワークの取組を充実させ、子どもの自尊感情や学習意欲の向上を図っていきたいと考えています。